

Title	会話の応答におけるメタ言語表現の使用：会話展開への言及 (2)
Sub Title	
Author	田中, 妙子(Tanaka, Taeko)
Publisher	慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター
Publication year	2024
Jtitle	日本語と日本語教育 No.52 (2024. 3) ,p.63- 74
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	調査報告
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00189695-20240300-0063

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

会話の応答におけるメタ言語表現の使用

—会話展開への言及（2）—

田 中 妙 子

1. はじめに

本研究の目的は、会話におけるメタ言語表現の機能を明らかにすることである。その端緒として、田中（2018）では、会話参加者の発話に対して他の参加者、すなわち聞き手が応答する際、相手の発話の何に注目してメタ言語表現を用いているかをテレビドラマのシナリオを用例として概観した。その際、杉戸（1983）、杉戸（1989）に示された言語行動の成立要素を分類の基準にした。考察結果を基に、田中（2020）では、聞き手が会話展開に言及するメタ言語表現、田中（2023）では聞き手が相手の言語形式に言及するメタ言語表現に注目して分析を行った。ただ、用例の種類が少なく、考察に不十分な点もあったため、その後更に用例採集を行った。本稿では、田中（2020）と同様、聞き手が会話展開について言及するメタ言語表現を取り上げ、新たに採集した用例から考察を加えることとする。

2. 研究対象と用語の定義

本研究では、田中（2018）に述べたとおり、メタ言語表現を「自分または相手の用いる言語コードについて言及する表現」とする。

分析の記述のため、田中（2018）と同様、会話参加者の一方が何らかの発話を行い、もう一方がその内容に応答するという発話連鎖を「第一発話」と「応答」に分ける。そして、第一発話を行う者を「第一発話者」、そ

れに対して応答する者を「応答者」と呼ぶ。分析は「応答者」が「第一発話」または「第一発話者」のどのような点について言及したかに注目して行う。なお、「第一発話者」は基本的には「応答者」に向かって発話をするが、三者以上が参加する会話の場合はそれに当たらないこともある。つまり、発話者 A と発話者 B がやりとりをし、それを同じ会話の場で聞いている発話者 C (= 応答者) がやりとりに参入して、発話者 A または B、あるいは発話者 A と B の発話に対して何らかのメタ言語表現を発するという場合があるということである。また、「第一発話」は必ずしも一回のターンとは限らず、複数のターンによって構成されることもある。

3. 分析

応答者が会話展開に言及するというのは、つまり、複数の会話参加者が自分たちの展開させている会話をどのように見ているかを言語化することである。これは情報のやり取りとは別の次元でのやり取りであり、このようなメタ言語表現の使用が会話の展開や人間関係を調整する役割を果たすことになる。田中（2020）では、会話展開への言及という点から応答者が言及することについて次の四つが観察された。

- (1) 第一発話者の発話の順序・タイミング
- (2) 第一発話者の発話と応答者の予想とのずれ
- (3) 第一発話者の話し方
- (4) 第一発話者の発話を含む会話の概観

本稿では新たな用例が採集できた (1) (2) (4) に関して考察を行う。

なお、用例は、問題とするメタ言語表現を下線で示す。また、[] に筆者が内容理解のための補足情報を加え、【 】に用例出典の略称を記す。略称の一覧は稿末に記す。

3.1 第一発話者の発話の順序・タイミング

田中（2020）では、第一発話者と応答者が想定している会話の進行に発

話の順序やタイミングの面で混乱や齟齬が生じ、会話が円滑に進まなくなる場合に、応答者が第一発話者の注意を喚起したり、実際に会話の軌道修正をしたりすることを試みるためにメタ言語表現を用いることが観察されるとし、その例として、次の四つを挙げた。

- ① 会話開始・話題提供のし方が唐突であることへの応答者の言及
- ② 第一発話者の発話のタイミングが遅すぎるということへの応答者の言及
- ③ 第一発話者の割り込み発話に対する応答者の言及
- ④ 第一発話者の発話が応答者の関心事とは異なる方向へ進行していることへの応答者の言及と方向修正

今回採集した用例の中には、上記②に関連して、相手または自分の発話がこのタイミングに合わないということに言及する用例が見られた。この用例には、事態の局面を表す「～ところだ」という表現がしばしば用いられ、その文脈は「今は～するところではない」、または「今は本来～するところだが、(何らかの事情により)それを～しない」というものである。例1～3は、本来冗談を言ったり笑ったりする局面ではないところで第一発話者がそのような言動をとったため、「会話の展開が自分の想定とは異なる」という違和感を言語化して伝えることにより、相手との意識の差を調整しようとする例である。また例4は、「本来は第一発話者の依頼に対して不満を言ってもよい状況だが、それをせずに依頼に応じることにする」という意図を言語化し、不満を持ちつつも依頼に応じるという自身の葛藤を伝えようとしている。このように、応答者は、会話の中でそれを発話すべき本来のタイミングはどこかということ想定しており、それに合わないタイミングで発話された場合には、違和感を言語化して、何らかの調整を行うという行動をとっていることが分かる。

- 例1 【颯馬が殺人犯だと疑われている。】 秀樹「まだ、颯馬が犯人と決まったわけじゃないだろ」 陽向「颯馬に訊いてみようか? 『あんだ犯人とちゃう

か?』秀樹「今、ボケるとこじゃねえぞ」陽向「すみません」【Re36】

例2 縁「猿渡君、結婚は?」猿渡「空き家。一度も同居人来ず」縁「フフフ」猿渡「笑うとこ違うし。そっちは?」縁「旧姓のままなんだから分かるでしょ。デリカシーないな、相変わらず」猿渡「ゴメン」【ビリーヴ 18】

例3 瑠璃「あなたは分かっているの?」ひかる「え」瑠璃「私のこと。そこまで言うなら、分かっているのかなって」ひかる「……. すいません、分かりません」瑠璃、声を出して笑う。ひかる「え、笑うとこ?」瑠璃「そりゃ分かるんないよね。だって見せてないもん。見せてないものは分からないよ」ひかる「……. ですよ」【瑠璃 31】

例4 [小原は裁判所の執行官で、犬が苦手。ひかりを助手にしようとする。] 小原「ぜひ、執行補助者・犬担当として私を守って頂きたい。無論手当はお支払いします」ひかり「なんで私がそんな…….とかなんとか言いたいとこですけど…….わかりました。やります、補助者の仕事」小原「え!? おお、やった! (栗橋に) やったよ!」【シッコウ 8, 9】

例5、6は「～ところだ」以外の表現を用いているが、これも今のタイミングで本来言うべきことと、応答者の実際の発話に齟齬があることを言語化している例である。例5は相手への慰めを述べているが、それが今の状況でふさわしい発言ではないことを自ら指摘している。一方、例6は昇進した相手への祝福を述べるが、相手があまり喜んでいないということを察して、波線の発話で「今はお祝いを言ってよい状況なのか」ということを質問し、それを受けて下線部分で「社会一般で言えばお祝いを言うべきところだろうが、自分は今、あまり喜んでいない」ということを述べている。

例5 [友人が咲子から離れていこうとしている。] 咲子「しんどそうで辛そう
で、分かってあげたいのに…….でも何聞いても分からないから、何もできなくて…….」高橋「だから離れるんじゃないですか?」咲子「!」高橋「それが、今咲子さんがしてあげられることかと」咲子「(落ち込み)…….そう、なんですかね」高橋「…….ごめんなさい。今言うべきって、きつと
そういうことじゃないんですよ」【恋せぬ 33】

例6 [高橋は昇進したことに困惑している。] 咲子「……………あの、なんかあったんですか?」高橋「……………」咲子「……………」高橋「……………実は昇進しました」咲子「え」高橋「店長代理に」咲子「ん? それは、おめでとうござ
います…….?」高橋「なんだとおもいます。本来は」【恋せぬ 51】

また、本項目に含まれるメタ言語表現としては、第一発話者が提示した

話題や会話そのものを中断することに関する発話が多く見られた。その中には、例7～9のように明確に話を中断させようとするもののほか、例10の相手の発話行為に対して批判を示すもの、例11、12の会話を拒否する意図を示すものがある。更に、例13～19のように話題や会話を終了させようとする意図を「(その話は) もう…／終わり／お終い／終了／以上／終わった」などの終了を表す語を用いて示すものもある。これらは独話中の単なる終了を表すメタ言語表現とは異なり、相手との会話や話題の継続を拒否する意図を示す機能を持つと言える。

例7 [玲奈は涼のトラウマについて聞く。] 玲奈「どした？」 涼「いや、ちょっとトラウマが」 玲奈「と、言いますと」 涼「……それ以上聞かないで」【さすらい 58】

例8 [美栄子は猛スピードで運転中。] ツヨシ「ちょっと、母ちゃん！」 美栄子「運転中話かけない!」 ツヨシ「母ちゃん!!」 美栄子「気が散る!」【オカン 71】

例9 [茂は年配だが、芸人になろうとしてレッスンの講師に色々質問し、他の生徒にうるさがられる。] 生徒1「さーんかーいめ! おじさん、ちょっと黙ろう! もしくは老人ホームへ」 ドツと笑う生徒たち。【さすらい 61】

例10 カズくん「(険しい顔)で、もう一度だけ確認しますけど…… 高橋さん、本当に咲子に気がないですか？」 高橋「何回同じこと質問すれば気が済むんですか」【恋せぬ 23, 24】

例11 カズくん「あのついでに質問なんですけど」 高橋「はい」 カズくん「咲子と一緒にいてムラッと来ないんですか」 高橋「そういう質問にお答えするつもりはありません」【恋せぬ 20】

例12 [咲子は高橋に話したいことがあるが、高橋は避けようとする。] 咲子「その前に、ちょっといいですか? お話」 高橋「僕は話、ないです」【恋せぬ 60】

例13 遥「(優しく)私と付き合ったのも、子供が欲しかったのも、全部おばあちゃんの為だったんだよね」 高橋「……」 遥「ごめんね、久しぶりののに……でも、ずっと思ってた……もっと自由に生きて欲しい。おばあちゃん(の為じゃなくて)」 高橋「(遮り) 祖母の話は、もう」 咲子「!」 高橋「……すみません…… 遥の心遣いには感謝しかありません。昔も今も……ですが僕はこの暮らしがいいんです。ずっとこのままが」【恋せぬ 56】

例14 [銀行員の僕が颯馬の働く工場への融資を断る。] 颯馬「僕僕?」 颯馬

- 「どうしてもダメなのか？」傑——。 傑「その話はやめようぜ」【Re37】
- 例 15 「キーは警官の伊佐に事件の被害者と犯人の話をしつこく聞いている。」
 キー「警察は嘘だって疑ってるの？」伊佐「疑いたくもなるさー。犯人たちの似顔絵作成には協力できないって言うわけ」キー「なんで？」伊佐「知らないよ」キー「連続犯だって話は？」伊佐「手慣れたるから連続だろうって被害者の憶測」キー「犯人の服装は？」伊佐「覚えてる一人が、黒いTシャツで蛇のプリント。はい、この話は終わり！」キー「待ってよ。仮に彼女が嘘をついてるとして、なんのために？」【フェンス 21, 22】
- 例 16 「越智縁は夫と離婚している。猿渡は縁に元夫が引き取った娘に会いに行こうと提案する。」縁「無理無理、あの人が承知しないわ」猿渡「モトダン？」縁、頷く。猿渡「越智が手術するって言えば、考えてくれるんじゃない」縁「無理よ。そんな人じゃないの。もう、忘れて。はい、この話はお終い」【ビリーヴ 21, 22】
- 例 17 「郁恵は妻、悟は息子。生島は二人の経営する会社に出向になる。」郁恵「まさか私もパパの会社に合併されるとは思ってたけど、決まった事は仕方ないし、ここは家族二人三脚でいこうよ。お互い上手くいけばWINWINなんだし」生島「それはそうだが……」郁恵「ということで会議終了。活躍期待しているよ、生島部長！」悟「お休み、パパ」【代表 79】
- 例 18 「生島の妻郁恵、息子浩がゲーム会社を経営している。生島は悟にソーシャルゲームの自社開発を提案する。妻も同じ会社に働いている。」悟「そもそもソーシャルゲームで何を出すかまでがセットだと思う。具体的なサービスの内容は？ どういうニーズを叶えるどんな仕様のゲームなの？」生島「い、いや。それはまだ」悟「じゃあ提案にすらなってない。話は以上。仕事に戻っていいよ、ママ」【代表 81】
- 例 19 咲子「あの……昨日の、お仕事のことなんですが」高橋「(軽くあしらい) その話はもう終わりました。ご馳走さまでした」と、手を合わせてから食器を片付ける。【恋せぬ 57】
- 例 20 「翔子はタクシーを運転しながら、客に話しかけている。」翔子「厚木ってどこで生まれたんですけど、知ってます？ 厚木」客「あのおさ」翔子「(笑顔) 客「あ、いいんで、そういうの、会話とかいららないんで」翔子「あ・・・すみません」【日曜 11, 12】

話題の中断については、上述のように完全に中断させようとする場合と、例 21～25 のように再開をほのめかして一旦中断させようとする場合がある。表現形式の面では、「後にする／また／後で」などの再開を表す表現や、「一回／一旦（中断させる）」などの一時的な中断を表す語が観察

される。

- 例 21 [みのりの夫の大輔が浮気をしている。] みのり「……で、今日大輔のスマホの GPS 確認したらホテル行って」カズくん「やっぱ探偵じゃん！」咲子「カズくん、ちょっと黙って」みのり「だから離婚しようって手紙置いて出てきたわ。そもそもアイツ、前の妊娠中も怪しくて」高橋「(遮り)あの……続きは、あとにしませんか?」【恋せぬ 39】
- 例 22 [電話] 早紀の声「長男が頼りないから、私がお母さんと同居してんのよ。旦那にだって気を遣うし、分かってんの？」猿渡「分かってるって」早紀の声「実家のこととか、これからの事ちゃんと考えてんの？ ねえ？」電子レンジがチンと鳴る。猿渡「あ、今からメシだから、その話はまた」と、電話を切ろうとする。早紀の声「あ！ 待って！ 箱の底にお兄ちゃん宛の手紙がこっちに来てたから、入れといた。じゃ、また連絡する」【ピリーヴ 13】
- 例 23 [失業中の健司は妻の佐川に文句を言われ、苛立って「あー」と大声を出しそうになる。] 佐川「私大変だろうから手伝ってくれるっていうからそうなんだって思ったのに何もしてないなって思って。ってか私別に家の事しなくていいから仕事してほしいんだけど」健司「……あーちょっと待って、今俺あーってなるからちょっと待って後で話そう」佐川「っていうか何か仕事くれる人接待でもしたら？ 家に居られるより飲んできたりしてる方が希望あるんだけど」健司「だから後で話そう、なるから俺あーって」佐川「知らないしそんなの」【きれい 84】
- 例 24 [映画監督が宏之にインタビューをしている。] 宏之「(略)でも僕はそこまで気にしてなくて、あの向こうは知らないですけど」監督「……なるほど……一回整理させてください」【きれい 80】
- 例 25 [高橋、土鍋の蓋を割ってしまう。咲子は台所に置いてあったパスタソースを取り出す。] 咲子「イノファームと地元レストランのコラボ商品らしくて……社長さんに貰ったんです」高橋「……」咲子「うどんとかご飯にかけても美味しいって、社長さんが……あ、社長さん結構な食いしん坊な方で」高橋「(遮り)すみません、一旦その話いいですか?」咲子「(高橋の異変に)え」高橋「先に片付けなと」【恋せぬ 50】

3.2 第一発話者の発話と応答者の予想とのずれ

田中(2020)では、第一発話者の発話と応答者の予想のずれについても考察した。会話の各参加者は会話がどのような方向へ展開するかをある程度予想しながら会話を進めることがあるが、実際には個人差があるため、他の参加者の発話が応答者の予想と大きくずれてしまう場合がある。その

ような場合に、応答者はメタ言語表現を用いてずれに言及し、第一発話者に対して自分との認識の違いを示す。その際、応答者は第一発話者への非難、不満、違和感、物足りなさなどを表す表現を用いることが多いということ考察した。

今回の用例の中で、例 26 は同様に第一発話者に対する非難の気持ちを表しているが、第一発話者は実は発話をしていない。そのため、第一発話者の発話に応答する者を「応答者」と呼ぶという本稿の定義からすると、これは考察の対象外となる。しかし、応答者は第一発話者の沈黙を「本来言うべき反省の言葉がない」というように理解して非難していることから、この用例も例外的に応答者のメタ言語表現の一つと考える。この例で応答者は、第一発話者から自分に対して慰めの言葉があるはずだと予想するが、実際には波線部分の沈黙や反論が返ってくる。その認識のずれに対する非難の気持ちをメタ言語表現によって示しているわけである。例 27 では、応答者は第一発話者との会話を続けたがっている。しかし、第一発話者が「もう会話を止めて、帰ってほしい」という意図を示したため、応答者は自分と第一発話者との認識のずれを意識し、「じゃ失礼しますな感じ（＝その場を去ること）が望ましいですよ」と確認して、応答者の意図に沿う行動をとろうとしている。ドラマの意義の一つは、会話の参加者同士が何らかの葛藤を乗り越える姿を描くところにあるため、否定的感情を伴うメタ言語表現が多いということは既に指摘したが、一方で、この例のように相手とのずれを言語化しつつ、自ら相手の意向に合わせるよう調整しようとする発話も見られる。

例 26 [邦子は娘のサチに不満を言うが、謝る。] 邦子「でも、そうだね、そうだよ、そうだ、私が悪い、ごめんごめん本当に私が悪い、ごめんね」サチ「……………」邦子「そんなことない、お母さんは悪くないって言わないんだ?」サチ「めんどくせ」邦子「面倒くさいわよ、しょうがないじゃん」サチ「……………」邦子「ごめん、本当にごめん、今は本当に悪いと思ってごめんって言ってる」サチ「さっきのは違うのかよ」邦子

「(むくれた) あ、そう来る?」サチ「(何か反論しようとするがやめた) ごめん」【日曜 16】

例 27 「サチは友人たちと密談をしており、そこへ現れたみねに、今は話す余裕がないから日を改めて食事とおしゃべりをすることを約束する。」みね「あ……わかりました、はい、えっと、奢りと会話のキープということで」サチ「はい」みね「了解です……はは」変な空気…… みね「あ、じゃ失礼しますな感じが望ましいですよね」サチ「できれば」みね「わかりました……あ、じゃ、また」サチ「また」【日曜 59】

3.3 第一発話者の発話を含む会話の概観

第一発話者を含む参加者がそれまでに行ってきた一連の会話の展開を応答者が把握し、それに直接言及して概観する場合である。つまり、自分たちが行ってきた会話自体について何らかのコメントをするということである。田中(2020)ではそのような発話の存在を指摘したものの、十分な用例で説明することができなかつたため、ここではより多くの例を観察する。

例 28 では、若い女性三人が飲み会をしている。そのような場合は、一般的に多くの女性が「自分語り」をする展開になるという前提の下で、「自分たちも自分語りをするかどうか」という相談が始まる。このように、ある状況の下でこれから会話がどのように展開するかということを会話参加者たちは「流れ」という言葉を用いて表している。例 29~31 では、その時点までに展開されてきた話の目的について、参加者同士で確認し合ったり、質問したりしている。ここには「そんな話はしていない」「会話にならない」など、自分たちの話の展開を概観する発話が見れる。例 32、33 では、現在の相手の発話が、それ以前の自分の発話に基づいて展開していないということに応答者が言及し、相手を非難している。

例 28 サチ、翔子、若葉の三人 ぐだぐだ飲んでる感じで…… 若葉「あれですよね、こういうときの流れって……順番に自分語りとかしますよね、しますか、実はね私みたいな」翔子「するね、しょうか、ね」と、嬉しそう(話したいようだ) サチ「やめよ、パス」翔子「え」サチ「なんか暗くなっちゃうし、引くしきつと」翔子「え? そんなことさあ」若葉「わか

ります、私も、やめときます。どんよりした話しかないんで、せっかく楽しいのに」サチ「うん」若葉「はい」翔子「そうか」と、残念そう サチ「え？ 何？ 話したいの？」若葉「聞いてほしいんですか？ だったら」サチ「ね」翔子「いやいや、この流れで実はさ、とか重い話できないでしょう？ いや、私もさ、自分語りはじめたら、しょぼいっていうか、寂しいっていうか、あと、痛い？ バカ？ そんなんばかりだからさやめとく、きつよね、皆、いろいろ」【日曜 24】

例 29 [伊佐はキーが妊娠したと誤解する。] 伊佐「沖縄にはね、ヌチどう宝って言葉があるわけ」キー「……？」伊佐「ヌチは命。命は宝」キー「……」伊佐「俺は、子供ができたら責任取るよ？」キー「なんでタカラ生まれちゃってんの！？」伊佐「そういう話でしょ」キー「そんな話してない！」伊佐「????」【フェンス 49】

例 30 [竜之介が同僚の女性のことを熱心に話している。] 京子「気になってしょうがないんだ」竜之介「(うろたえて) そんな話してないでしょ？」京子「意外と情熱家なんだ」竜之介「彼女はね」京子「それを見てるだけなのが、切ないんだ」竜之介「僕は切なくない」京子「脇役はつらいんだ……」竜之介「誰が脇役っすか！ 京子さん、会話になんない」【魔法 95】

例 31 瑠璃「…… どうしたの急に」ひかる「なにが？」瑠璃「別人じゃん」ひかる「あなたも別人だよ。どうしちゃったの、瑠璃」瑠璃「…… 私の名前、知ってたんだ」ひかる「うん。瑠璃は？」瑠璃「…… ごめん、知らない」ひかる「ひかる」瑠璃「ひかる？」ひかる「そう。いいコンビだよ、私たち」瑠璃「意味分かんない。勝手に結成するな」ひかる「いい演技のためには、国語の勉強も大事だよ、主演女優さん」瑠璃「……さっきから何言ってるの？」ひかる「ねえ、瑠璃」瑠璃「なに、ニヤニヤして」ひかる「この諺、知ってる？」【瑠璃 38】

例 32 [売れない芸人の涼は、ライブの人気投票の成績が悪く、芸能事務所マネージャーの北橋から辞めるように言われる。] 涼「お笑いが好きなんです。好きで、好きで、好きで……」拍子抜けする北橋。 涼「やっぱ大好きなんです！」北橋「だーかーら、さっきの話聞いてた？」涼「……一か月！」北橋「ん？」涼「一か月ください！」【さすらい 64】

例 33 [あみは夫の橋本が体外受精について自分の意見を言わないことに苛立っている。] 橋本「いつも言ってる。僕は子供はいてもいなくてもどっちでもいいんだ。でもあみが欲しいならとことん付き合う」あみ「その言葉が、いつも私を傷つけてるってわからないの？」橋本「え？」あみ「私の意見を優先している優しい旦那ぶるのやめてくれない？ そんなの優しさでもなんでもない。私はあなたの本心が聞けないことが一番傷つくのよ」橋本「……」あみ「体外受精、この最後一個でもう終わりにしようと思

う。もう本当にラストチャンス」橋本「あみがそうしたいなら、そうすればいい」あみ「ねえ、今の話聞いてた?」あみ、悲しそうな顔で橋本を見る。【ラスト 66, 67】

4. まとめ

以上、会話におけるメタ言語表現の広がりを見るために、応答者が発話の展開にどう言及するかという点からの分析を行った。用例数が増えるに従い、更に新たな視点が生まれるため、今後も調査を続ける必要がある。また、これまでの分析結果を基にして、自然会話のコーパスにおけるメタ言語表現の使用も見していきたい。

用例資料

映人社『ドラマ』所収

- 【Re】 清水有生「Re:member～サイカイ～」第1話～第3話（2022年6月号）
- 【きれい】 加藤拓也「きれいのくに」第1回～第4回（2022年7月号）
- 【恋せぬ】 吉田恵里香「恋せぬふたり」第4回～第8回（2022年8月号）
- 【魔法】 上田誠「魔法のリノベ」第2話・第3話（2022年9月号）
- 【さすらい】 平岡達哉「さすらいのパンツマン」（2022年11月号）
- 【代表】 宮本真生「代表取締役息子」（2022年11月号）
- 【オカン】 山浦雅大「オカンは宇宙を支配する」（2022年12月号）
- 【瑠璃】 市東さやか「瑠璃も玻璃も照らせば光る」（2023年1月号）
- 【ラスト】 井本智恵子「ラストチャンス」（2023年1月号）
- 【ピリーヴ】 長島清美「ピリーヴ」（2023年3月号）
- 【フェンス】 野木亜紀子「フェンス」第1話・第2話（2023年5月号）
- 【日曜】 岡田恵和「日曜の夜ぐらいは…」第1話～第3話（2023年6月号）
- 【シッコウ】 大森美香「シッコウ!!～犬と私と執行官～」第2話・第3話（2023年9月号）

参考文献

- 杉戸清樹（1983）「待遇表現としての言語行動―『注釈』という視点―」『日本語学』2巻7号 明治書院 pp. 32-42
- 杉戸清樹（1989）「言語行動についてのきまりことば」『日本語学』8巻2号 明治書院 pp. 4-14
- 田中妙子（2018）「会話の応答に見られるメタ言語表現―シナリオを例として―」『日本語と日本語教育』第46号 pp. 31-44
- 田中妙子（2020）「会話の応答におけるメタ言語表現の使用―会話展開への言及―」『日本語と日本語教育』第48号 pp. 19-30

田中妙子（2023）「会話の応答におけるメタ言語表現の使用一言語形式への言及―」『日本語と日本語教育』第 51 号 pp. 65-79